書　評　Book Reviews

□佐藤 卓：**花のアルペンルート立山―フラワーウオッチングガイド―**　Takashi Sato: **Guide to "Flower Alpine Route Tateyama"**　122 × 205 mm. 159 pp. 2019. ほおずき書籍．¥2,000 + 税．ISBN 978-4-434-26316-3 C0645.

「花のアルペンルート立山」とは著者の命名で，立山は交通機関と軽い徒歩で 3000 m の稜線に立てる，国内では数少ない別天地である．本書は，読者に訪日外国人観光客（いわゆるインバウンド）を含めて想定した，北アルプス立山のハンディな植物図鑑である．所掌範囲は美女平から雄山など稜線部までで，山地の植物から高山植物まで代表的な植物が収録されている．

本書では花型と花色を組み合わせて 25 のアイコンが作られ，掲載順序はそのアイコンによっている．1 ページに 2 種が取り上げられ，原則として全体像と花の拡大写真か果実の画像が掲載されている．撮影者についてのコメントはないが，著者が永年に渡って撮りためてきたものだろう．

全体を通じて英文の説明が添えられていることが本書の大きな特徴となっている．スペースの問題もあり，植物の説明は短いが，写真がその点を補足している．

巻末に，立山とスイスアルプス，米国レーニア山との高山フロラの比較がなされている．地域ごとに，出現する科や属に微妙ながら明瞭な違いがあるのが面白い．例えば，立山とレーニア山ではスゲ属やスノキ属が多く，スイスアルプスではリンドウ属やホタルブクロ属などが多い．

本書は北アルプス立山を散策される方々には必携の図鑑となるだろう．

（門田裕一 Yuichi Kadota）

□御巫由紀（解説）・大作晃一（写真）：**野ばら ハンドブック**　Yuki Mikanagi (text) • Koichi Osaku (photo): **The Handbook of Wild Roses in Japan**　新書判．152 pp. 2019. 文一総合出版．¥2,000 + 税．ISBN 978-4-8299-8136-8.

バラといえば関心の主体は園芸バラにある．同じ著者と写真家による『魅惑のオールドローズ図鑑』（2018 年，世界文化社）は，園芸バラの一群オールドローズの栽培品種を本書とほぼ同じ趣向で紹介した良書である．

日本は種数では決してバラの野生種が多産する地域とはいえないが，今日の園芸バラの作出に不可欠であったノイバラ，それに次ぐ重要性を担うテリハノイバラ，ハマナスの自生地であり，バラの研究・育種上，注目に値する地域といえる．バラ属のうち，ノイバラのように花柱が合着する一群 *Synstylae*（合着花柱群）が日本のバラ相を構成する 12 種中の半数を占める．ノイバラ，ヤマイバラ，テリハノイバラ，ヤブイバラ，ミヤコイバラ，フジイバラがそれだが，さらに今日では変種とされるツクシイバラ，アズマイバラ，モリイバラを含め，長年にわたってそれらの分類は混乱してきた．これまでに出版された諸書にもその影響が残り，地域植物誌など合着花柱群のバラは厄介視される傾向にあった．

本書は，いずれの種のバラも，その特徴となる点を十分に押えて撮影された写真を通して容易に区別することができ，野外観察などでも種の識別に威力を発揮してくれるにちがいない．全形だけでなく，盛沢山といえるくらい多数の分解写真などが含まれ，眺めるだけでも参考になる．標準的な個体の撮影を可能にし，また重点を押えた部分写真の掲載も著者と写真家の多年にわたる研究の蓄積があってのものであるのは間違いない．好書の刊行を喜びたい．　（大場秀章 Hideaki Ohba）

■**訂正 Correction**　谷本雄治（文），大野八生（絵）：**牧野富太郎ものがたり：草木とみた夢**　Yuji Tanimoto (text), Yayoi Oono (illustration): **Makino Tomitaro Monogatari: Kusaki to Mita Yume**　株式会社出版ワークス.

94 巻 5 号掲載「牧野富太郎ものがたり：草木とみた夢」の書評につきまして，「随所に田中伸幸氏（元 高知県立牧野植物園，現 国立科学博物館植物研究部）の解説がちりばめられ」とご紹介いたしましたが，「随所に著者の解説がちりばめられ」の誤りでした．なお，田中氏の解説は巻末に掲載されております．謹んで訂正申し上げます．

（小栗一輝 Kazuki Oguri）